

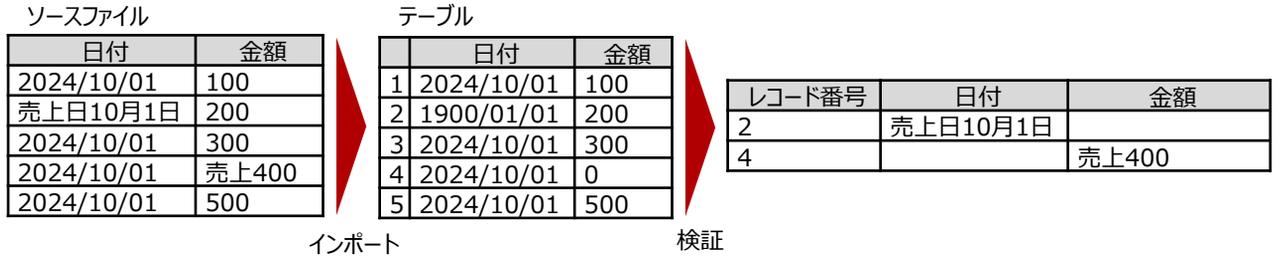
データ検証

指定したフィールドのレコードでフィールドのデータ型と一致していないデータを抽出する

◇機能

《データ検証》は、インポートしたデータの指定したフィールドのレコードがフィールドのデータ型と一致しているか検証する機能です。《データ検証》の結果は、テーブルに出力することも可能です。

エラーの値はソースファイルの値を表示します。



◇メニュー

《分析》-《データ検証》

◇設定内容

データ検証

テーブル名 検証 1

エラー制限 10 5

データ検証フィールド 2

フィールド名	データ型	フィールド選択
日付	D	<input type="checkbox"/>
金額	N	<input checked="" type="checkbox"/> 4

3

出力先 8

画面

テーブル

IF条件 7 6

保存先 9

11 10

キャンセル 実行

1. テーブル名 : 操作の対象となっているテーブルが表示されます。
2. 検証フィールド (必須)
 - : 順番検査をするフィールドを選択します。
 - フィールドは、複数選択できます。
 - 番号順に表示の順番が決まります (左から順に表示)。
3. フィールドの全選択/全解除
 - : チェックボックスのオン/オフで、すべてのフィールドの選択/解除が行えます。
4. 《フィールド選択》ボタン
 - : 「フィールドの選択」画面を開き、フィールドの選択・並び順の変更を行うことができます。
5. エラー制限 (必須)
 - : 出力するエラーの件数を指定します。
 - エラーの件数は1~10,000の任意の整数を指定できます。
6. IF条件 (任意) : 抽出条件を設定する場合は、「IF条件」に条件式を入力します。
7. 《式ビルダー》アイコン
 - : 「IF条件」の条件式を入力するために、式ビルダーを開いて使用できます。
8. 出力先 (必須) : 実行結果の出力先を選択します。デフォルトは、「画面」が選択されています。
 - 画面 : 実行結果を画面に表示します。
 - テーブル : 実行結果を新規テーブルに出力します。
9. 保存先 (出力先が「テーブル」の場合は必須)
 - : 実行結果の出力先となる新規テーブル名を入力します。
 - テーブル名の長さは、64文字までです。
 - 「出力先」で「画面」を選択した場合は、入力できません。
 - ファイルの保存先は、プロジェクトが保存されているフォルダの「04_table」フォルダです。
 - 《保存先》ボタンで、保存するフォルダを変更できます。ただし、使用可能なフォルダは、プロジェクトが保存されているフォルダの「04_table」フォルダおよびそのサブフォルダのみです。
10. 《実行》ボタン : 実行します。
11. 《キャンセル》ボタン : 実行せず画面を閉じます。

◇ 実行結果の表示

● 画面出力の場合

データの検証

日時: 2024/11/06 12:52:31

テーブル: 検証

コマンド: VERIFY ON ALLFIELDS ERRORLIMIT 5 TO SCREEN

データの検証: 5個のデータ妥当性エラーが検出されました

レコード番号	日付	金額
1	2	売上日2024/10/2
2	3	売上金120
3	8	百七十
4	10	R6年10月10日
5	13	2024年10月13日

検証の結果が表示されます
エラーの数が「エラー制限」で指定した値を超えた場合、アラートが表示されます

エラーになったレコード番号とレコードが表示されます

● テーブル出力の場合

検証結果

レコード番号	日付	金額
1	2	売上日2024/10/2
2	3	売上金120
3	8	百七十
4	10	R6年10月10日
5	13	2024年10月13日

◇ 操作ログ

VERIFY ON FIELDS [検証フィールド1] [検証フィールド2] …または**ALLFIELDS ERRORLIMIT N IF 条件式 TO 出力先**

※「IF条件」を設定した場合は、IF条件式が記述されます。

※出力先は、「出力先」の選択により、記述が変わります。

出力先	ログ
「画面」を選択した場合	SCREEN
「テーブル」を選択した場合	“(サブフォルダ名)¥新規テーブル名”